



午前 9:30~11:00 絵巻入門—物語を伝える色と形 (山本聡美)
11:00~12:00 休憩 質疑

午後 14:00~15:30 絵巻における時間と空間の表現 (佐野みどり)
15:30~16:30 休憩 質疑

日時 2019年2月26日火曜日
場所 北京日本学研究中心—403室

「源氏物語絵巻」宿木巻 (徳川美術館所蔵)



描かれた物語 ——絵巻研究へのアプローチ——

山本聡美 (やまもと・さとみ)

1970年生。共立女子大学教授。日本中世絵画史。早稲田大学大学院修了。博士(文学・早稲田大学)。特に六道絵、十王図、九相図、仏教説話画、経説絵巻等を考究。2016年、「九相図」の調査研究の成果に対し、第36回上野五月記念日本文化奨励賞を受賞。

- ・『国宝 六道絵』(共編、中央公論美術出版、2007年)
- ・『九相図をよむ 朽ちてゆく死体の美術史』(KADOKAWA、2015年、芸術選奨文部科学大臣新人賞・第14回角川財団学芸賞を受賞)
- ・『闇の日本美術』(筑摩書房、2018年)



佐野みどり (さの・みどり)

1951生。学習院大学教授。日本美術史、芸術学。東京大学大学院修了。博士(文学・東京大学)。特にやまと絵や工芸を対象として日本美術の装飾性や物語性に注目し、『源氏物語絵巻』等の絵巻や掛幅縁起絵の研究を牽引。1999年、紫式部学術賞受賞。編著多数。

- ・『風流・造形・物語 日本美術の構造と様態』(スカイドア、1997年)
- ・『じっくり眺める源氏物語絵巻』(小学館、2000年)
- ・「中世絵画のマトリックスⅠ、Ⅱ」(編著、青簡舎 2011年、2014年)